

**令和3年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
乳がん部会 概要**

- 1 日 時：令和4年1月7日(金) 13:20～15:00
 2 場 所：オンライン
 3 出席者：

	氏名	所属
委 員	長尾 育子	岐阜県総合医療センター 部長
	伊在井 みどり	岐阜県医師会 常務理事
	森光 華澄	岐阜大学医学部 乳腺・分子腫瘍学
	加藤 統子	東海中央病院 医務局診療放射線科
	長瀬 亜矢子	市町村保健活動推進協議会保健師部会（高山市）
オブザーバー	久保田 芳則	可茂保健所 所長
事務局	赤尾 典子	保健医療課長兼健康推進室長
	森 稚加子	主幹兼がん・受動喫煙対策係長
	田口 未夏	技師
	成瀬 萌果	主事

4 内 容：

報告：1 令和2年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会乳がん部会議事

2 岐阜県のがんの現状等

- ・乳がん検診においては、診療放射線技師と近いところでの接触があること、乳がんバスでの検診では狭い空間に入ることへの心配の声が住民から聞かれた。
- ・乳がんは自分で触っての発見が可能な分、検診受診の啓発に重ね自己検診(ブレストアウェアネス)の啓発を行うことが重要。また、その方法についてもインターネットを活用する等、状況に応じ方法を工夫し行っていく必要がある。

3 がんの予防(乳がん検診)の推進について

(1) 正しいがん検診の実施

- ・指針改正により、医師不在で診療放射線技師のみでマンモグラフィ検診を行う時の対応が示された。マンモグラフィ検診において医師が必要となる緊急時とは、撮影時乳房の圧迫により気分が悪くなること又は意識消失である。巡回のバス内でこれらの緊急事態が発生した場合どう対応するか、マニュアルで定めておく必要がある。また、それ以外は技師のみで撮影するにおいて問題はなく、医師を手配しない分検診の機会や時間の余裕が増え良くなった部分もある。
- ・超音波検診の実施については、死亡率減少効果が明らかになれば指針に導入される可能性がある。また、今超音波検査の中止は人材育成を妨げることとなり、今後導入される時にマンパワー不足になる。超音波検査はマンモグラフィで発見しにくい人については有効な検診方法であるが、要精検率が高くなるところが問題である。がん検診は精密にやればやるほど良いというものでもないことに留意したい。したが

って指針に基づく検診は担保して、プラスアルファで実施してもらいたい。

(2) がん検診マネジメント

- ・外来患者へのアンケートによると、“対策型検診”は“外来診療”と同じ検査を行っているにも関わらず、『精度が低い』と思われていることが分かった。対策型検診は自治体や県により精度管理されており、安心して受けられる検診であることを発信し受診率を向上させていく必要がある。

(3) がん検診の受診率向上対策

- ・人口規模の小さい市町村では、コール・リコールに加えて特定健診と併せたがん検診の実施、夜間休日の検診体制の整備、検診実施場所の工夫等小回りの利いた対策を行っている。受診率向上のためには、住民のニーズに合わせ、受診しやすい環境を作ることも重要。
- ・がん検診は不要不急の外出に当たらないとされていることから、今後も検診の受診率が低下しないよう市町村・検診実施機関と連携しがん検診は安心して受けられることを啓発していきたい。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関に周知を行い、精度向上に向けた取組みを促していく。